

●ポスターの部 入選

- 秋山ゆかり (秋山小 4年)
- 上田 康男 (深川小 5年)
- 舛谷 育美・五十嵐鮎美 (仙崎小 6年)
- 宮本 達雄 (深川中学校 2年)
- 石川妙子・松尾和美 (深川中学校 3年)
- 百合本貴之 (仙崎小 4年)
- 百合田尚子 (仙崎小 4年)
- 深川小 1年 (深川小 1年)
- 橋本 裕子 (深川小 1年)
- 小倉 美代子 (仙崎小 2年)
- 今津 貴文・板場 美幸 (深川小 3年)
- 内山 美穂・石津三宝子 (仙崎小 4年)

■作文の部 特選

「いころ」

深川小学校6年

山下裕美

「えーっ。こいつのとなり  
の席、ぼくいやだ。」  
五年生になって、始めての  
席変えがありました。とつ然、  
Mさんのとなりの席になった  
男子がどなりました。  
「きたないから、近よらんで  
」。  
「そうだ。あっち行けよ。」  
周りの人みんな口々に、文  
句を言つて、Mさんから机を  
はなしたり、そっぽを向いた  
りしました。  
Mさんは、今にもこぼれそ  
うな涙をぐつとこらえて、う  
つむいていました。そんなM  
さんを、なぐさめる人は、だ

らだつてこんないいところも  
あるんだよと、みんなにも早  
く気づいてほしかったので、  
友達と相談してみました。  
今度お楽しみ会で、出し物  
を、各グループですることに  
なったので、私達のグループ  
に、Mさんに入ってもらつて、  
仲良しの友達になろうと思ひ  
ます。  
私の友達も、Mさんのいい  
ところに気づき、進んで出し  
物について協力してくれるよ  
うになりました。  
お楽しみ会で、私のグルー  
プは、短くて楽しい劇をひろ  
うすることにしました。も  
ちろん主役はMさんです。  
ぶたいに上がつて演じてい  
るMさんの笑顔を見て、私も  
うれしく思いました。  
今まで見たMさんの素顔の  
中で、一番すてきでした。あ  
の笑顔は、今でもとても印象  
に残っています。まるで、ど  
んよりした雨雲が、ぱつと晴  
れたみたいに、Mさんの心も  
きつとすみきつていたでし  
う。  
Mさんも六年になって、前  
よりも明るくなっています。  
これからも、ずっと友達でい  
てあげたいです。  
「本当にまずしくてきたない  
人」それは、見ためのことで  
す。どんなに身なりがわるく

ても心はやさしい人かもしれ  
ません。  
私は、見ためより、まず心  
が大切だと思います。いじめ  
をする人、差別をする人。  
そんな人が、本当の心のきた  
ないまずしい人だと感じまし  
た。  
「差別」  
これをかいつするには、  
一人の力ではどうすることも  
できません。みんなの心が一  
つになって、助け合い、協力

「人権作文」

深川中学校3年

宇野 美裕紀

わたしと小鳥とすずと  
わたしが両手をひろげても、  
お空はちつともとべないが、  
とべる小鳥はわたしのよう  
に、地面をはやくは走れない。  
この詩で歌われているよう  
に、人は全くなじみではなく、  
どこかが違います。十人十色  
ということわざが、古くから  
日本にあるように、人間は一  
人ひとり、みんな違う個性や  
特徴をもっています。体格、  
顔つき、性格、物の考え方や  
くせなど、同じ人は一人とし  
ていないと思います。そして  
それは親から受けついで大切  
なものです。だから、自分に  
しかない個性やその人しか  
ない個性を、おたがい大切に  
していかねばならないと思  
います。ましてや、部落差  
別や他の差別により、その人

の個性を、おしつぶしては  
いけないと思います。  
私は、小学校5年生の時、  
初めて差別というものがあるこ  
とを兄から聞かされました。  
部落差別や人種差別など多く  
の差別がこの世の中にあると  
聞かされた時、私はひどいシ  
ョックをうけたのを覚えてい  
ます。それだけが私の頭の中  
に残つて、その夜は眠れませ  
んでした。その翌日、あまり  
にも気になるので「本当に部  
落差別や人種差別があるのか」  
と母に聞いてみました。  
「あるんだよ。だけどねー、  
差別なんかぜったいしたらい  
けんよ。」  
何故か、それを聞くと私は、  
ほつとしてしまいました。  
しかし、私の心の中にはな  
んともない、もやもやす  
るものが残っていました。  
それから、五年間、学校な  
どで、差別の勉強をし、たく  
さんのことを知りました。今  
まで勉強してきた中で一番腹  
が立ったことは、就業まで制  
限されていることでした。だ  
れにも夢というものがあ  
り、得意なものがあります。な  
ぜ、それを差別や偏見によつて、  
あきらめなくてはならないの  
でしょう。同じ人間なのに  
。私は「自分が同和地区の出